

大 切 に

し た い

京 都 の

路 地 選



京都市
CITY OF KYOTO

大切にしたい京都の路地

はじめに

路地の価値を見直し、再生していこうという動きは、この10年余りの間に、世界中で進んでいます。グローバルな都市化が進むなか、その土地に根差した多様な価値が存在する場所として、路地がいま改めて注目されているのです。

京都の路地も、京町家が軒を連ねる町並み、親密なスケール感を保ちつつ、子供たちが安心して遊べる空間、職住一体の暮らしや、時代を超えて継続するコミュニティを支える空間として機能しており、長い歴史の中で培われた暮らしの知恵や文化が多面的に集積する場所として評価することができます。

しかしながら、その一方で、路地は地震や火災に対して弱い面を持つことも事実です。もちろん、これまでも減災のための様々な工夫が重ねられてきましたが、さらなる取組が必要です。各地で災害が多発するなか、いま一度、歴史や文化を大切にしながら、安全性を高め、路地を保全・再生・継承していくことが強く求められているのです。

今回、「大切にしたい京都の路地選」に応募していただいた路地では、所有者や住民の方々のためなめ努力のもと、そのような取組が進められています。また、一言に京都の路地といっても、実に多様な路地が存在することを実感することができます。これをきっかけとして、路地の多様な価値が見直され、路地の保全・再生・継承に向けた取組の輪がさらに広がっていくことを願っています。

「大切にしたい京都の路地選」選定会議座長 高田 光雄

トンネル路地(撮影:光川貴浩)

「大切にしたい京都の路地選」について

京都市内で、路地の魅力を守り、生かすための取組が実施されている路地や、魅力ある路地の風景写真を募集。

募集対象 幅員4m未満の道

募集部門 (い)路地を生かした取組部門

(ろ)路地のある風景写真部門

募集期間 平成28年9月23日(金)～平成28年11月22日(火)

選定会議メンバー(敬称略、五十音順)

阿部大輔(龍谷大学政策学部准教授)

大島祥子(一級建築士、スーク創生事務所代表)

高田光雄(京都大学大学院工学研究科教授)

牧 紀男(京都大学防災研究所教授)

水野歌夕(写真家、町家写真館館長)

(い)路地を生かした取組部門 3p～12p

安全な暮らしの備えやコミュニティ活動、町並みの維持など、路地の魅力を守り、生かすための取組を行っている路地を、写真と推薦文でご応募いただきました。(応募31件)

まちづくり◆防災◆歴史

六原学区の路地 桜井の路地 鳳瑞町の路地 溝前町の路地 東西依屋町の路地 御前通

地域◆まちなみ◆コミュニティ

昭和小路 青葉辻子 曼陀羅園町の路地 御所東団地 紫野ろーじ あけびわ路地

くらし◆まつり◆ささえる

さらしや長屋 鏡石町の路地 東寺ろーじ 元町の路地 了頓団子 亀山稻荷神社への路地

あきない◆文化◆つどう

上黒門町の路地 あじき路地 寛遊園 MAGASINN KYOTO 京創舎 柳小路

うみだす◆つながる◆再生

南観音山の路地 東山八坂通 ゑびす小路 玉屋・山三小路 本町エスコーラ まちぐさ路地

(ろ)路地のある風景写真部門 13p～18p

お地蔵様や石畳など路地を彩るアイテムに焦点をあてた写真や、お気に入りの場所の写真をご応募いただきました。(応募213点)以下のキーワードのもと、55点と路地を彩るなかまたち30点を掲載しています。

みまもる

いきかう

めぐる

わかちあう



まちづくり ◆ 防災 ◆ 歴史

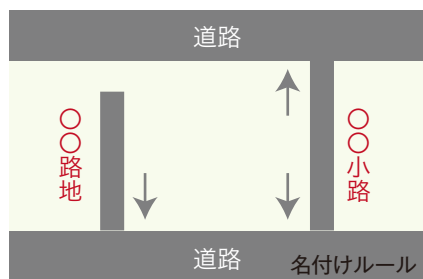
六原学区の路地 (東山区六原学区全域)

～みんなでつけよう ろじのあいしょうプロジェクト～

六原学区には約90の細街路(幅員4m未満の道)があります。その大半は名前がなかったため場所が特定しづらく、災害時の初動の遅れが懸念されていました。また、同じ町内会でも細街路に入ったことがない人が多く、災害時の逃げ道が十分に把握されていないことも課題でした。

そこで、町内会ごとに細街路の名前を考え、地域特性を生かした陶器製の銘板を作成・設置しました。名前は大きく「路地＝袋路(行き止まり)」「小路＝2方向避難可」に分けたことで、知らない道でも避難できるかどうかわかります。

このプロジェクトを通じて、地域への愛着と理解を深める機会となり、防災に不可欠な地域コミュニティの強化にもつながっています。また、名前と場所の情報を消防署と共有することにより、名前を告げるだけで消防隊や救急隊が駆け付けることができるという効果も生まれています。



講評(牧 紀男委員)

路地は京都の魅力の源泉です。一方、災害時に路地は危険な場所となります。通り抜けができない路地の入り口が火災や家の倒壊でふさがれると奥に住む人は避難ができません。木造建築が密集し、道が狭い路地では火事は簡単に広がります。京都の人は「火を出さない」ことに気をつけてきました。路地には、火が出ても直ぐに消せるように消火用のバケツがあります。自分の住むまちが災害に弱いことを知り、人の手による備えが行われてきました。しかし、人の力には限界があります。路地の良さを守りつつ、まちの危険な場所を知る、通り抜けのドアをつける、道を少し広げるといった、より安全に路地での暮らしを続ける活動が、ゆっくりに行われています。



桜井の路地 (上京区西北小路町)

～町家再生に合わせた袋路の防災性向上～

路地内の京町家購入者が町家を再生。袋路奥から公園に繋がる緊急避難扉の設置や、老朽化の進行したガス管交換など、防災力とともに住人同士の結束も増しました。平成27年には、路地奥の町家が地藏盆会場になり、その際路地外の町内住人は避難扉から出入りできるようにするなど、地域との関係も良好です。



鳳瑞町の路地 (上京区鳳瑞町)

～表からも裏からも逃げやすく～

鳳瑞町には、静かな昔ながらの町並みが残る袋路があります。袋路の奥は高低差があり、災害時の避難に不安があったため、袋路奥に避難扉と可動梯子を設置。その後、袋路入口のひび割れた古いブロック塀を除却し、町並みに合った金属塀に改善したことで、さらに安全が高まりました。



東西俵屋町の路地 (上京区東西俵屋町)

～隣り合う路地で進める防災まちづくり～

学区の防災まちあるきをきっかけに、住人同士で改善策を検討し、2つの路地を繋ぐ避難扉を設置することで2方向避難が可能になりました。現在も、路地を守りながら防災性をさらに高めるため、住人を中心に、路地全体で安全を高める計画づくりに取り組んでいます。



溝前町の路地 (上京区溝前町)

～町内ぐるみで取り組む路地防災～

平成19年に有志が集まり発足した町内独自の防災組織「溝前町守る会」。「災害時の助け合い」に重点を置き、防災倉庫を設置。定期的な器具のメンテナンスや高齢者の救援対策、防災訓練等に取り組んでいます。自分たちの町内に災害が発生した場合に何が必要なかを話し合いながら、活動しています。



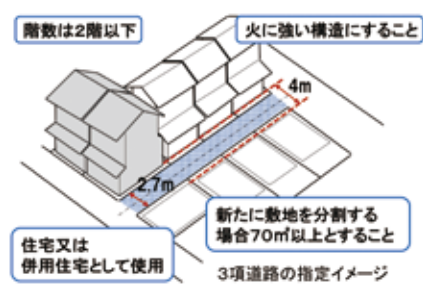
御前通の防災みちづくり (北区紫野西土居町)

～細街路の拡幅整備モデル事業第1号～

柏野小学校の南側は道幅が狭く、交通のボトルネックとなっており、地元から拡幅を求める声が多く挙がっていました。土地活用に伴い、地主、保育園、事業者ら関係者が協力し合い、後退用地を京都市に寄付し、補助事業を活用して、道路の拡幅整備を行いました。



地域 ◆ まちなみ ◆ コミュニティ



しょうわこうじ 昭和小路 (東山区五条橋東四丁目)

～住人みんなで守る路地の町並み～

五条通から六波羅蜜寺へ向かう路地の一つ「昭和小路」。約2.7m幅の細い道と建ち並ぶ京町家のスケール感がちょうどよく、昔ながらの雰囲気懐かしい路地です。約半世紀にわたり「火の用心」の夜回りを行うなど、コミュニティもしっかり息づいています。一方、防災上は、道幅が狭く、住宅が密集して延焼の危険性が高いといった課題があります。通常4m未満の道路の場合、建物の建替え時に敷地を後退しなければならず、敷地が極端に小さくなったり、また路地の持つスケール感や雰囲気が損なわれてしまいます。

そこで、昭和小路では「路地のある町並みを再生するための道路指定制度」(3項道路の指定)を活用しました。これにより、道幅は現状とほぼ同じ2.7mのまま建替え等ができ、将来的に建替え等がされる時にも、路地の雰囲気を維持することができるようになりました。



講評(水野 歌夕委員)

路地の中に残る歴史的な町並みや、町家の景観を保全・再生または修景する試みによって、昔ながらのコミュニティや地域との関係が強化または再構築されていく好例が生み出されています。路地の中に増えた個々の空き家を再生し、町家の賃貸住宅などとして安全快適に活用することで、生き生きとした暮らしが戻り、路地全体の魅力が高まると同時に住民の方々の連帯感も向上しています。「路地のある町並みを再生するための道路指定制度」などの各種制度を活用した取組が結実しています。地域の自治会や住民、大学が連携して空き家の活用法を見出す取組は、学生世代と地域がつながる町おこしとして素晴らしく、今後の継続展開が期待出来ます。



こうやくのずし 膏薬辻子 (下京区新釜座町)

～路地を生かした景観まちづくり～

膏薬辻子は四条通に面しているにも関わらず、一步入ると通りの喧騒とは全く別の静かな路地空間が広がっています。このような町並みを守るため、住人の方々によるまちづくり組織を設立し、「膏薬辻子式目」として暮らし方のルールを定めるなどの取組を行ってきました。こうした取組が隣接するホテルの修景や石畳風舗装の実現につながっています。



まんだらえんちよう 曼陀羅園町の路地 (東山区今熊野日吉町)

～町家を生かした地域の触れあいづくりプロジェクト～

昭和初期につくられた曼陀羅園と呼ばれる住宅地は、数寄屋的な意匠の上質な長屋が建ち並んでおり、昭和初期の住宅開発の好例です。平成26年度京都市「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクトに採択され、同町に所在する町家を生かした地域の触れあいづくりプロジェクトを実施。町内を中心に、地域交流、文化交流、教育活動を行える場所としました。



紫野ろーじ (北区紫野東藤ノ森町)

～地域、大学と連携した空き家活用～

昔ながらの町並みが残る一方、高齢化が目立つ地域。近隣の大学を巻き込み、自治会や地域住人による紫野学区のまちづくり活動を継続して行ってきました。その取組の一つとして、まちあるきで把握した空き家の一つを学生向けシェアハウスに活用。ボランティアや地域の方の協力を得て改修し、地域と学生を繋ぐ機会となりました。



御所東団地 (上京区新富町)

～路地の長屋を安心安全な住まいへまるごと再生～

御所の東側にあるこの路地は、都心にありながら静かな生活空間が残っています。居住者の安心を高めるため、平成17年に京都市の支援を得ながら、大家さんが長屋全体の耐震・防火改修及びバリアフリー化を実施。袋路の長屋が安全で快適な住まいとして、都市に住む選択肢の一つとなる可能性を市民や長屋所有者に対して示すモデルとなっています。



写真提供:内田康博建築研究所

あけびわ路地 (下京区須決町)

～空き家活用で生き返った路地～

あけびわ路地と呼ばれるコの字型の路地沿いに建つ空き家だった長屋を、空き家活用・流通支援等補助金を活用して改修し、賃貸住宅に再生。外観を生かしながら、内部の設備を一新し、現代スタイルの町家に生まれ変わりました。若い世帯や海外からの研究者が入居。コミュニティ活性化にもつながっています。



くらし◆まつり◆ささえる



写真提供: 新建築社写真部



写真提供: 新建築社写真部

さらしや長屋 (下京区晒屋町)

～空き家と路地コミュニティ再生～

幅1.5mほどのトンネルの奥に並ぶ4軒長屋。路地をシェアする新しいスタイルの賃貸住宅が生まれました。空き家だった長屋を丸ごと改修できる機会を生かし、子育て世帯が安心して暮らせる路地文化の再生を目指しました。地域も巻き込みながら路地の再生を計画。路地入口のトンネル上部には地蔵盆などの町内の祭事用具の収納スペースに提供。コミュニティを育めるように、お絵かきができる壁や、共有の縁側、また災害時に使える雨水タンク等も設置されています。平成26年度京都市「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクトに採択されており、空き家活用の事例としても注目されています。

講評 (高田 光雄委員)

京都においても都市的環境が広がり、少子高齢化が進行するとともに、一人暮らしの世帯が増加している。こうした状況の中で、以前にも増して、自然や社会に触れながら子どもを育てることができる空間や、多世代の人々が交流することができる空間が求められている。路地は、都市の中でこうしたニーズを満たす貴重な空間資源である。ここで紹介する路地では、人と人との多様な関係の構築や、古くから伝わる路地文化の継承や現代的展開が認められる。かけがえのない生活空間としての路地の価値を再認識したい。

鏡石町の路地 (上京区鏡石町)

～龍神祭と災害時協力井戸～

路地奥にある「多日龍神(たつみりゅうじん)」は、西陣織の職人が住む家を建てるために溜め池を埋め立てた際、出てきたたくさんの蛇を祀ったと言われています。この路地沿いにある井戸は、災害時の生活用水を確保するための災害時協力井戸として京都市に登録されています。普段は静かな路地ですが、祭時には軒先に提灯が下がり、華やかな雰囲気になります。



東寺ろーじ (南区東寺町)

～空き家を活用した町家フリースペースの運営～

空き家が目立ち、老朽化が進む路地で、にぎわいを取り戻すことを目的にプロジェクトを開始。町家を改修し、賃貸住宅2軒とフリースペースをオープン。賃貸住宅は、震災の影響で京都に住む人に限定しています。「ろーじ家」はギャラリーやイベント会場として利用できるフリースペースです。



了頓図子 (中京区了頓図子町)

～地蔵盆と防災訓練による路地住人の交流～

図子に新しい住人が増え、子どもが多くなったことから夏まつりを企画。東日本大震災以降の防災意識の高まりと町内の交流をはかるため明倫自治連合会、中京消防署、明倫消防分団等の協力を得て防災訓練と町内住人での炊き出しを実施。新旧住人の交流と、顔と名前が分かる関係づくりにつながりました。



「凧としてたたずむ 趣のまち 元町」の路地 (東山区元町)

～地蔵盆と路地のコミュニティ管理～

「戸締り当番」と呼ぶ当番制で路地の掃除、水撒き、お地蔵さんの掃除等を行っています。8月には、元町のまちづくり活動団体「凧の会」と町内会の企画で、地蔵盆と夏祭りを開催。読経や数珠回しといった地蔵盆の催しに加え、行灯での演出や音楽ライブ等を通して、楽しい時間が共有されています。



亀山稲荷神社への路地 (下京区中野之町)

～歴史ある路地での地域活動～

亀山稲荷のある路地は、安芸国広島浅野家の京屋敷でした。その後、丹波亀山(亀岡)藩松平紀伊守の屋敷地と変わり、屋敷内に祀られていた稲荷社が今も尊崇を集めています。歴史ある町内での地域活動も盛ん。路地奥に町内の集会施設があり、地蔵盆や集会など地域の行事の会場にもなっています。



あきない◆文化◆つどう



写真提供:京の住まい再生支援機構



写真提供:京の住まい再生支援機構

上黒門町の路地 (中京区上黒門町)

～地域と共生した新しい宿泊施設のかたち～

路地奥の空き家所有者から活用方法について相談を受けた地元の事業グループが、宿泊施設を営む事業者を紹介。定期借家契約により収益性の高い宿泊施設として活用することで、所有者の負担なしで腐朽しかかった長屋を改修により健全化。改修費用回収後に所有者に返却される仕組みとしました。

市内では路地奥の宿泊施設に対して不安の声が多く聞かれますが、ここでは他の路地住人や近隣との話し合いを重ね、宿泊スケジュールの町内への回覧や施設の清掃の地域への委託、施設を地域の会合や地蔵盆の会場として利用できる仕組みなどを導入し、宿泊施設と共生する路地の実現を図りました。

平成28年6月宿泊施設の運用を開始、8月には路地で地蔵盆が開催され、たくさんの子もたちで賑わいました。

講評(阿部 大輔委員)

路地で商いを営む場合、地域との関係作りが欠かせません。急増する民泊に代表される宿泊業は、地域の生活空間との摩擦も懸念されています。ここで紹介する取組は、地域にとっても有益な施設であろうとする試みでもあり、地域との対話をベースとする今後の民泊の一つのモデルとなると期待されます。時代ごとに商いの形は変わりますが、町家の修繕、入居者の戦略的な選定、路面の石畳化、防災対策や清掃活動といったオーナーの熱意と適切な管理によって、店子が安心して商いに専念し、それが路地全体の魅力的な雰囲気を作り上げるといった好循環が生み出されています。どの取組も、「お互いが顔の見える関係性と機会づくり」という、京都のまちの作法を丁寧につむぎだしている点に敬意を表します。

私たちも取り組んでいます

(い)路地を生かした取組部門

あじき路地 (東山区山城町)

～大家さんと若者による職住一体路地の再生～

あじき路地は大家の安食さんが、築100年以上の長屋を改修し、ものづくりを頑張る若者に職住一体の場として、平成16年から提供しはじめました。様々な職人がここで暮らしながらものづくりに携わり、安食さんのことを「お母さん」と呼び、路地全体が家族のようなつながりを持っています。職住一体にこだわり、店舗のみでの提供はしない、お母さんのこだわりがあじき路地の魅力をさらに高めています。



撮影:松村シナ



撮影:松村シナ



撮影:菊地佳那



撮影:光川貴浩

寛遊園 (下京区大宮町)

～大家さんが見守る繁華街路地～

四条大宮の一筋北に、F字型の路地を生かした「寛遊園」と呼ばれる飲み屋街があります。昔懐かしい盛り場の雰囲気も継承されながらも新しい世代の酒場も登場しており、静かな京都の路地とは一味違った魅力が溢れています。一帯を所有するオーナーが清掃活動を行っており、適切に管理されている様子が伺えます。



写真提供:株式会社 八清



写真提供:株式会社 八清

コワーキング∞ラボ京創舎 (下京区葛籠屋町)

～路地奥のコワーキングスペース&シェアオフィス～

路地奥の向かい合った2棟の長屋をリノベーションし、平成28年9月オープン。「暮らし」をテーマに、個人・小規模事業者がオフィス環境を共有し、交流しながら働いています。長年空き家で放置されていた長屋を現代のワークスタイルに合わせて再生し、新しい路地奥物件の活用方法となりました。



Editorial Haus MAGASINN KYOTO (上京区中書町)

～地域と融和した宿泊・文化施設～

「MAGASINN KYOTO」は、五感でカルチャーを体験できる空間メディアとして、平成28年5月オープン。宿泊は1日1組限定で、トンネル路地の京町家一棟を貸切。近隣住人からの評判もよく、地藏盆に会場を提供するなど地域とも良好な関係を築いています。



撮影:フミタン

柳小路と八兵衛明神 (下京区中之町)

～路地と明神様の復活～

明治時代に新京極通が誕生し、この界隈も歓楽街として発展。その後荒廃と復興を繰り返しながら、平成16年に「御二九と八さい はちべー」を開業した岡本さんが、通りを見守り続けてきた八兵衛明神を修復し、道の舗装を市や店主に掛け合い石畳化が実現。今では老若男女問わず賑わっています。



写真提供:株式会社 京都建築事務所

うみだす ◆ つながる ◆ 再生



写真提供:株式会社 京都建築事務所



写真提供:株式会社 京都建築事務所

南観音山の路地 (中京区百足屋町)

～コーポラティブ方式による町会所と路地の一体開発～

祇園祭の山鉾の一つ、南観音山の旧会所は昭和7年に建てられた木造2階建の町家でした。会所の奥は袋路となっており、木造2階5軒の住宅が軒を連ねていましたが、老朽化などを理由に建て替えを計画。蔵(南観音山収蔵庫)を火災から守るための耐火・耐震化、会所の使い勝手向上、袋路長屋の再生、山の担い手入居を目的に、山の保存会と袋路の地権者による任意の「百足屋町388建設組合」を設立し、「コーポラティブハウス方式」で会所と一体開発しました。

外観は2階建に見えるよう3階部分をセットバックさせるなど町並みにも配慮。手前に保存会の会所と蔵、会所の奥は、鉄筋コンクリート造4階建て、延べ面積約930㎡、従前の居住者と山の担い手7軒が入居する共同住宅が平成28年7月に完成し、その年の祇園祭から使用を開始しました。

講評(大島 祥子委員)

この項目では、新しいステージを歩む路地が紹介されています。南観音山の路地では、祇園祭の山鉾を収蔵する蔵や会所を新しくしつつ都心居住の場が生み出されました。玉屋・山三小路は市内の袋地再生の先駆けで、複数の地権者が協働で取り組んだ事例です。これらは地権者がまちの未来を見据え協議を重ねて取り組んだのが特徴です。平成の京町家東山八坂通とゑびす小路は事業者が新しく供給した住宅で、路地を新設し、周囲の安全性や町並み形成に寄与しました。本町エスコラは新しいコミュニティが路地奥の空き家を生活・交流の拠点として再生しました。まちくさ路地は子どもの目線で路地の魅力を発見していく取組です。いずれも、都市に暮らす魅力が享受できる新しい空間の多様性を示しています。

私たちも取り組んでいます

(い) 路地を生かした取組部門



写真提供:株式会社 ゼロ・コーポレーション

平成の京町家東山八坂通 (東山区小松町)

～路地と京町家のある町並みに調和する新しい住宅開発～

密集した歴史的市街地に建つ4棟8戸の住宅団地。建築基準法86条1項の一団地認定を利用し、一敷地内に複数建物を一体的にデザイン。「平成の京町家」をさらに進化、発展させ、建物だけでなく屋外空間も含めて計画し、通風や採光を効率的に確保すると同時に、避難通路や防災用空地を確保しつつ、周辺街区に溶け込んだ町並みを生み出しました。



写真提供:株式会社 ゼロ・コーポレーション



写真提供:株式会社 八清

写真提供:株式会社 八清

ゑびす小路 (左京区石原町)

～新しくつくられた現代版京町家と路地～

京都らしさを追求め路地もつくった京町家風新築賃貸物件。歴史ある京町家の雰囲気演出しつつ、現代の暮らしに沿った間取りや機能性などが配慮された新しい生活空間です。入居者は30代のファミリー層が中心。京都らしい住空間はもちろん、地域の祭りに参加するなど、コミュニティのある暮らしに満足しています。



本町エスコラ (東山区本町)

～路地を若者の居住・活動スペースに～

「ともに作る」ことを通してコミュニティを育むため、東山区本町の路地裏の長屋を改修。5軒の空き家を改修し、コミュニティスペースと住居・アトリエ棟からなる学びの場として整備。平成26年度京都市「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクトに採択されています。



たまや やまさんこうじ 玉屋・山三小路 (上京区鏡石町)

～共同建替による袋路再生～

都心部での人口回復、高齢化対策、コミュニティ再生による都心活性化の観点で平成3年度から京都市が取り組む袋路再生の第1号。平成10年に玉屋・山三小路で共同住宅が竣工。2人の地権者の共同事業として、多くの関係者の理解と協力を得て、既存の複数の木造住宅を除却し、新しい共同住宅に建て替えました。



まちくさ路地 (市内全域)

～路地に生える草の観察ワークショップ～

「まちくさ」とは、まちに生える草とその周辺環境を一体として捉え、そこに独自に命名・分類することの総称として平成19年にまちくさ博士こと重本晋平氏が定義付け。京都市内を拠点に全国で子どもを対象に参加型体験プログラム「まちくさワークショップ」を行い、子どもたちとの対話を重ねています。

路地のある風景



みんなで守る (撮影:住田 幸夫)

この路地は、地蔵尊を中心に、住民の一人一人によって、守られている様子がよくわかる。

写真部門の講評

❖応募作品を見て、上質な散歩に出掛けた気分になりました。住人の方々の息づかいや生活の匂いが漂ってくるかのようでした。これほど多様性に富み、心をくすぐる空間は、京都が先人から脈々と受け継ぐ「都市の住まい方」の知恵の結晶でもあります。ソトのようでウチでもあり、境界が曖昧な路地沿いに根付く「都市の作法」は、いままたちに生活の本質を教え続けてくれています。(阿部 大輔委員)

❖路地を舞台とした営みの多様性と京都の様々な側面を知ることができました。生活の場、遊びの場、学びの場、祈りの場など路地は多様な活動のステージ。鳥の目で眺めれば美しい町並みが見えたり、蟻の目で見ればヒューマンスケールな空間や人の営みを彩る設えが見えたり。この多様さが、それぞれの見方、生き方を柔らかく許容してくれそうなのが、私たちが路地に惹かれてやまない理由なのでしょう。(大島 祥子委員)

❖応募作品を通じて、多様な路地の存在とともに、被写体となっている路地の生活者と撮影者の多様な価値観の存在を確認することができる。多様な価値観の共存は現代のまちづくりの最大課題である。路地の保全、再生の取組が、多様な価値観を受容する京都の魅力を高め、異なる価値観をもつ人々の協働によるまちづくりの発展に結びつくことを期待したい。(高田 光雄委員)

❖大きな火事も、はじめのうちはバケツの水で消すことができます。火を出さない、火が出たら直ぐに消す、自分たちでまちの安全に責任を持つことで路地と木造建築が多い京都は守られてきました。家々の前にはバケツがおかれ、奥には地域活動の核となる地蔵があります。赤い消火用バケツは路地での生活には不可欠なものです。(牧 紀男委員)

❖細長く奥へと続いていく路地をただ遠近法で構図するだけではなく、そこに住まう人々のつながりを描いた作品や、行き交う姿を点景とするなど、路地の暮らしの一コマを巧みに捉えた作品が印象的でした。路地空間がもつ様々な表情や趣き、多彩な瞬間が、各々の感性で十分に表現され、路地の特徴や個性が絵作りに活かされています。(水野 歌夕委員)



夕暮れの路地 (撮影:鈴森 惇)

京の路地には興味を持って時々訪れます。特にあじき路地は路地としての雰囲気が良いので好きな所です。



見つめる先に (撮影:ひつじ)

歩いていたら、とても趣のある路地に出会いました。お向かいの路地に住むおばあちゃんとたまたまお喋りが始まり、一緒に眺めていました。



路地裏の母娘 (撮影:もりもり)

京都の路地裏のいつもの光景・考えさせられます。



上七軒の下校時間 (撮影:北岡 愛)

上七軒歌舞練場の近くの路地。夕方下校時間、子どもたちが元気よく帰っていきました。



緩やかなカーブが魅力 (撮影:さっちょこ)

近所の路地はお気に入りの散歩コースです。



トンネル路地 (撮影:FT)

トンネル路地の奥から表を見返した光景。緩やかに閉ざされた小宇宙的空間。



路地を見守る (撮影:もりもり)

路地の夜明けを寄り添って待っているようでした。

みまもる

いきかう



こんにちは～、どちらへ～? (撮影:是永 美樹)
昼下がりの午後、買い物から帰ってきたおばあちゃんと運動に出かけるおばあちゃん。路地で出会ってごあいさつ。



石が生きる路 (撮影:中谷 輝雄)
石畳に石積みの土留、天然の素材で造られたしっとりとした風情、絶対に残して貰いたい。



石の門をくぐれば (撮影:山本 健一)
石の門と石垣と石畳の組合せがいい感じで、気に入っています。



遊びに来たよ!! (撮影:あつしまま)
友達の家遊びに来ました。静かな路地奥に住んでいます。



並走する路地 (撮影:FT)
2本の路地が並走する。都心に残された聖域。



走って行こう! (撮影:あつしまま)
路地は車通りが少なく走っても大丈夫なのがいいですね。



路地と和傘 (撮影:池永 守)
何気ない生活感もどこか奥深く感じてしまう。京都にはそんな魅力がある路地がたくさんあります。



おめでとうさんです (撮影:中川 智子)
舞妓さんや芸妓さんたちが正装し、お師匠さまやお茶屋さんに日頃の感謝を伝える行事八朔(^▽^)/



都会の真ん中の辻子 (撮影:さっちょこ)
暖簾の内側から辻子を見たところ。途中で2回折れ曲がる独特の形が魅力です。

めぐる



階段路地? (撮影:山本 健一)
階段ですが、路地のような感じです。吉田山の東側に、古い町並みが残っています。



静かな抜け路 (撮影:アス)
ひっそりと静かに存在し、それでも親しみ続けられていることを感じさせる素敵な路地でした。



人力車、路地を往く (撮影:アス)
法観寺 八坂の塔を望む人気の人力車ルート。さあさ、もうすぐ見えてきますよ。

わかちあう



ザ・路地 (撮影:フミ)

軒の連なり、路面の落書、防火バケツ、控えめな緑、奥には祠。路地の要素が凝集されている。



路地をつなぐ屋根とみどり (撮影:西村 亮彦)

路地に架け渡された屋根と両側に並ぶ鉢植えが、心地よい回廊を生み出すとともに、対面する2軒の関係を想起させる。



緑のトンネル路地 (撮影:光川 貴浩)

緑のトンネルの先に、どんな道があるのかワクワクしながら歩くことができました。



生活造景としての路地 (撮影:FT)

ここでは洗濯物もひとつの造景物。



路地空 (撮影:ひつじ)

路地の道幅で切り取られた空。生活感も滲み出して、路地の雰囲気を感じられます。

路地を彩るなかまたち ~路地の魅力のひとつでもある定番アイテムを紹介します。~

◆はなやかな路面 路面の石量は、市電の軌道敷を再利用したものが多くあります。丁寧に手入れされた路面は、おもてなしの心です。



撮影:komori



撮影:藤本



撮影:上原 智子



撮影:野々村 建一



撮影:びかつよ

◆安心してくらす 袋路などは災害時に避難が困難になることも。備えあれば憂いなし。路地内に入るときはマナーを守って。



撮影:大武 千明



撮影:是永 美樹



撮影:もりもり



撮影:光川 貴浩



撮影:気まぐれpapa

◆路地をみまもる 市内には多数のお地藏さん。夏には各地で地藏盆が開催されます。毎日の手入れも欠かさず行われています。



撮影:松村 シナ



撮影:ろじぞう



撮影:ろじぞう



撮影:野田 千夏子



撮影:野々村 建一

◆トンネルを抜けると 市内にはトンネル路地が多数残っています。トンネル路地の奥は静かな生活空間が広がっています。



撮影:谷口 悠貴



撮影:株式会社 ハ清



撮影:ゆりっぺ



撮影:酢橋



撮影:ひーちゃん

◆いきものたち 路地は猫たちにとっても住みやすい場所なのかもしれません。草花も路地の彩りに華を添えます。



撮影:ひつじ



撮影:Koizumi



撮影:123



撮影:野々村 建一



撮影:ろじくさ

◆路地のいろいろ 壁面や植栽にも魅力と個性が溢れています。狭い空間に配慮した駐輪スタイルも路地ならではの。



撮影:ロッキー



撮影:Office M



撮影:機やげん堀グループ 岡本圭司



撮影:気まぐれpapa



撮影:鈴木 章雄

京都市都市計画局
まち再生・創造推進室(密集市街地・細街路対策担当)
〒604-8571 京都市中京区上本能寺前町488
TEL.075-222-3503 FAX.075-222-3478

